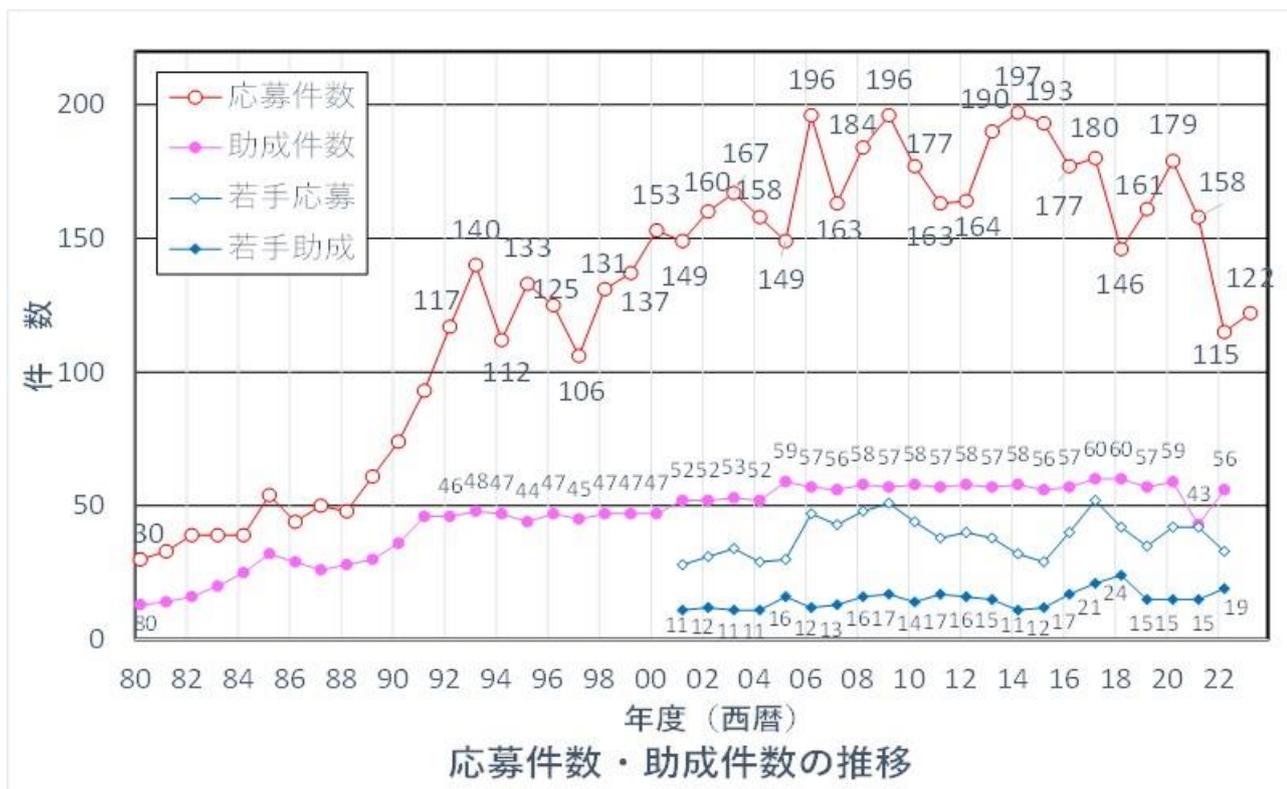


2023 年度の研究助成事業の公募は、4 月 1 日から 5 月 31 日までの募集期間で行った。  
今年度の応募結果 (速報) は以下の通りである。

【応募状況全般】 (カッコ内は過去 5 年の数字)

- ① 応募総数は 122 件 (18 年:146 件, 19 年:161 件, 20 年:179 件, 21 年:158 件, 22 年:115 件) であり、昨年度より 7 件、6%増加した。うち新規テーマは 88 件 (22 年:96 件)、継続 34 件 (22 年:19 件) の応募があった。
- ② 大学からの応募は 110 件 (18 年:116 件, 19 年:130 件, 20 年:141 件, 21 年:128 件, 22 年:103 件), 7 件増加。
- ③ 高専からの応募は 4 件 (18 年:12 件, 19 年:12 件, 20 年:13 件, 21 年:8 件, 22 年:7 件) で 3 年連続減少。
- ④ 研究所・団体等からの応募は 8 件 (18 年:18 件, 19 年:19 件, 20 年:25 件, 21 年:22 件, 22 年:5 件)。  
昨年から 3 件増加したが 2 年前までと比べると半減以下。
- ⑤ 若手研究の応募は 29 件で全体の 24%。件数は 2 年連続の減少。比率はバラツキの範囲内。  
(18 年:42 件・28%, 19 年:35 件・22%, 20 年:42 件・23%, 21 年:42 件・27%, 22 年:33 件・29%)
- ⑥ 初めての応募者は 30 人で全体の 25%。人数、比率とも昨年より増加したがバラツキの範囲内。  
(18 年:41 人・28%, 19 年:31 人・19%, 20 年:41 人・23%, 21 年:42 人・27%, 22 年:27 人・23%)

【応募件数・助成件数の推移】



【分野別応募件数】

- ①地球環境分野は、近年増加傾向の中で昨年の 58 件から 62 件とさらに増加した。
- ②資源循環分野は、昨年応募数が大きく減少したが、今年は 20 件から 28 件へ増加した。(従来レベル弱)
- ③大気分野は、昨年大きく減少したが、今年は更に 17 件から 15 件へ減少した。
- ④土壌水質分野は、昨年大きく減少したが、今年は更に 20 件から 17 件へ減少した。

分類・課題	2019年度応募件数			2020年度応募件数			2021年度応募件数			2022年度応募件数			2023年度応募件数		
	一般	若手	合計												
<b>(1)地球環境</b>	<b>22</b>	<b>9</b>	<b>31</b>	<b>28</b>	<b>16</b>	<b>44</b>	<b>27</b>	<b>12</b>	<b>39</b>	<b>39</b>	<b>19</b>	<b>58</b>	<b>47</b>	<b>15</b>	<b>62</b>
①抜本的なCO2排出削減	9	3	12	6	2	8	8	2	10	5	3	8	6	2	8
②カーボンニュートラル基盤技術	7	2	9	16	7	23	15	7	22	23	8	31	30	6	36
③未利用エネルギー有効活用	4	4	8	5	6	11	2	1	3	3	3	6	5	3	8
④地球温暖化に対する適応	2	0	2	1	1	2	2	1	3	7	4	11	5	3	8
⑤環境汚染物質の発生抑制技術	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	1	1	2
<b>(2)資源循環(副産物)</b>	<b>27</b>	<b>6</b>	<b>33</b>	<b>34</b>	<b>2</b>	<b>36</b>	<b>33</b>	<b>9</b>	<b>42</b>	<b>15</b>	<b>4</b>	<b>19</b>	<b>22</b>	<b>6</b>	<b>28</b>
①スラッグの利用・高付加価値化	25	6	31	31	2	33	32	9	41	14	4	18	17	5	22
②プラスチックリサイクルなど循環型社会形成に資する技術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
③副産物の減量・減容化、再利用	2	0	2	3	0	3	1	0	1	1	0	1	2	0	2
④水銀汚染廃棄物の効率的処理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤他産業の副産物及び廃棄物の鉄鋼業への有効利用技術	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
<b>(3)大気</b>	<b>29</b>	<b>5</b>	<b>34</b>	<b>26</b>	<b>8</b>	<b>34</b>	<b>24</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>12</b>	<b>5</b>	<b>17</b>	<b>11</b>	<b>4</b>	<b>15</b>
①PM2.5・光化学オキシダント対策、測定技術	19	5	24	23	7	30	19	7	26	8	4	12	9	4	13
②省エネ、低コスト、高効率化	6	0	6	2	0	2	3	0	3	2	1	3	1	0	1
③水銀等重金属の低減	4	0	4	1	1	2	2	0	2	2	0	2	1	0	1
<b>(4)土壌水質</b>	<b>48</b>	<b>15</b>	<b>63</b>	<b>43</b>	<b>14</b>	<b>57</b>	<b>32</b>	<b>13</b>	<b>45</b>	<b>15</b>	<b>5</b>	<b>20</b>	<b>13</b>	<b>4</b>	<b>17</b>
①水処理高効率化、重金属等の除去・回収	26	11	37	25	11	36	14	8	22	8	2	10	7	1	8
②土壌・地下水汚染の浄化・測定技術	14	2	16	11	3	14	6	3	9	5	1	6	3	0	3
③閉鎖性海域の環境対策	8	2	10	7	0	7	12	2	14	2	2	4	3	3	6
<b>(6)その他</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>合計</b>	<b>126</b>	<b>35</b>	<b>161</b>	<b>131</b>	<b>40</b>	<b>171</b>	<b>116</b>	<b>42</b>	<b>158</b>	<b>82</b>	<b>33</b>	<b>115</b>	<b>93</b>	<b>29</b>	<b>122</b>
下線: 特に関心のある技術課題															

以上